

2023年度委員会事業報告書

グループ名 繋がりあいHRグループ

委員会名 伝統を未来へ委員会

担当副理事長 樋口 梨紗
委員長 古川 祐基
副委員長 星川 優
総括幹事 深谷 崇允
拡大幹事 中村 駿斗
運営幹事 佐藤 光
広報幹事 関谷 冴基
アドバイザー 山田 真之介



【担当事業及び担当例会】

- ① 6月公開例会(地元の祭りを知ろう! ~祭りでつなげる人のWAっしょい! ~)の実施
- ② 10月公開例会(地元の祭りに触れよう! ~祭りでつなげる人のWAっしょい! ②~)の実施

【実施効果及び成果】

【事業①】6月公開例会(地元の祭りを知ろう! ~祭りでつなげる人のWAっしょい! ~)

事業後のアンケートでは、事業対象者となった小学生の約9割が地域の祭りに興味を持てたと回答があり、保護者からの回答では、地域の祭り(青年団)を応援していきたいと回答した方が6割にも達したことから、地域住民の方が地域の祭りを自分事として考えられるような事業となりました。

また実施後には、豊川市観光協会から来年度以降の豊川夏の市民祭りにおいて、JCとして手筒花火の披露ならびに子ども手筒花火の披露を行ってほしいとの声も挙がっており、今後の祭りの担い手不足解消に向けた新たな一歩を踏み出した事業となりました。

【事業②】10月公開例会(地元の祭りに触れよう! ~祭りでつなげる人のWAっしょい! ②~)

豊川市に住む外国人市民の方を対象に手筒花火の製作、披露体験を行っていただくことで、来年以降に実際に祭りに参加したいという外国人市民の方を増やす事業となりました。

【反省並びに今後の課題】

【事業①】6月公開例会(地元の祭りを知ろう! ~祭りでつなげる人のWAっしょい! ~)

細かい反省点は多々ありますが、一番の課題としては、LOMメンバー・外部協力者の参加が少なかったことが挙げられます。協力していただける方の参加が増えることで、より質の高い事業が

行っていた可能性があることから、前々からの事業日程の確定と周知が必要であることを感じた事業となりました。どの事業でも同様ですが、事業の意味・目的を周知しながら、周囲の人間を巻き込んでいくことが重要な要素となるので、その反省は今後の事業につなげていきたいです。

【事業②】10月公開例会(地元の祭りに触れよう!～祭りをつなげる人のWAっしょい!②～)

地域の若者に地元の祭りに対して、興味を持ってもらうために行った事業ですが、地域の若者を参加者として集めてくることの難しさを感じた事業となりました。したがって、地域の祭りの担い手不足を解消するためには、地道な活動を行い続けていく必要があることを痛感する事業となりました。

【委員長所見】

今年度、祭りの担い手不足という社会課題に取り組み、その原因が多岐に渡ることや抱えている問題もそれぞれの祭りで異なるという難しさを感じました。しかし6月例会のように、少しでも祭りに興味を持ってもらう地域住民が増えることで、祭りを取り巻く環境が改善され、豊川市の伝統的な祭りが未来へとつながっていくことを心から願っております。

また上述の通り、豊川市観光協会からのオファーから、豊川青年会議所として夏の市民祭りに貢献できる機会をいただける形となっています。そちらも全力で取り組み、引き続き貢献を続けていきたいと考えています。

様々な苦労をおかけした樋口副理事長をはじめ委員会メンバーに支えていただき、なんとか活動ができた一年間でした。そのメンバーの皆様へ感謝するとともに、この一年間の経験を今後のJC活動につなげ、豊川市そして豊川JCの発展に貢献できるよう、今後も活動していきたいと思えます。

【担当室長所見】

豊川市の伝統や文化である祭りの担い手不足が著しく減少しており、今後は祭りの継承が危うい地域も出てきていることが分かりました。その中で我々が取り組んできた事は、「未来現在の担い手に、まずは祭りに興味を持ってもらうこと」「祭りに参加したいと感じてもらうこと」を目的に置き、手法を検討して実施いたしました。6月では、地域の子供や親世代の支え手、担い手をターゲットとし、10月では、豊川市の若者をターゲットとし、祭りのことを知ってもらい、自ら作製し披露する事で達成感を感じていただけました。このことで、祭りに興味を持ち、次年度も祭りに参加していきたい。という意識醸成が叶いました。結果、目的に対する手法は適切なものだったと言えます。これに満足せず、今後も古川委員長はじめ、委員会メンバーと共に、豊川市の伝統や文化である祭りを伝え続けていきたいと思えます。